

経営比較分析表（平成30年度決算）

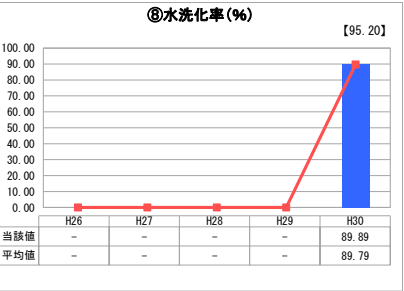
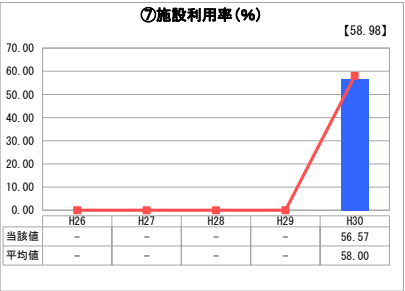
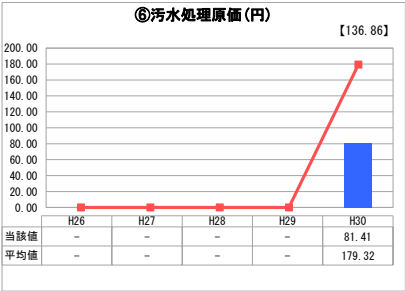
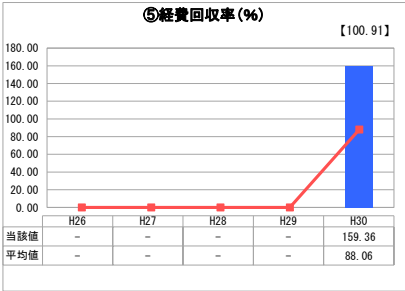
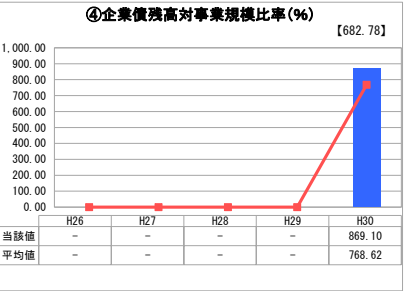
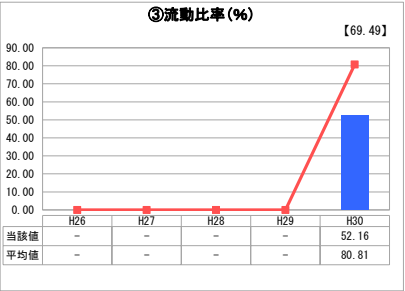
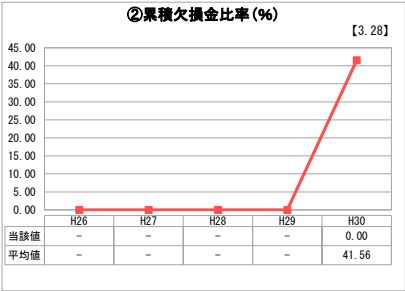
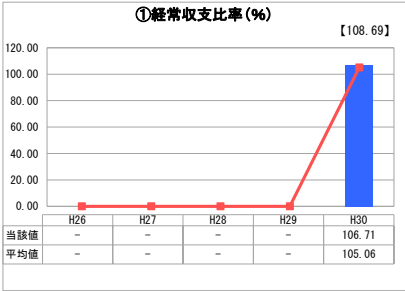
岡山県 笠岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	59.46	56.47	83.71	2,548

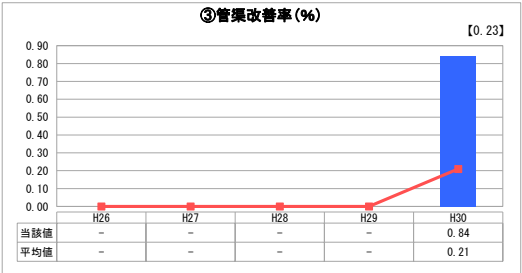
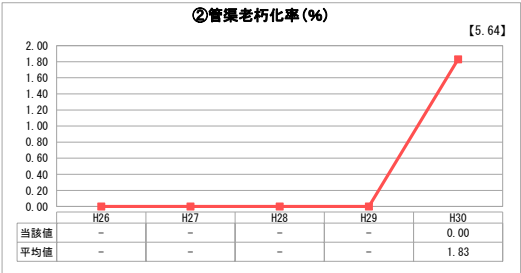
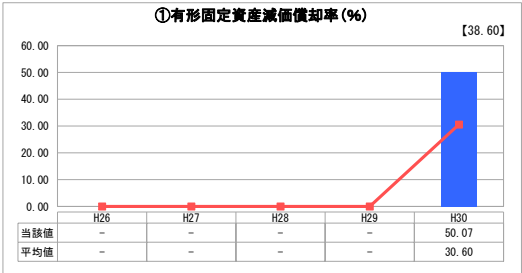
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,712	136.24	357.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
27,335	8.14	3,358.11

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は平成30年度から地方公営企業法を適用し公営企業へと移行した。

- ①について
他団体とほぼ同等の水準になっている。
- ②について
下水道使用料収入が減少傾向にあり、年間の元利償還金の償還は現在増加傾向にあるが、他団体水準を下回っている。
- ④について
本市の地理的要因により資本費が割高となることから他団体よりもやや高い水準となっている。
- ⑦について
水処理施設増設により平成28年度から60%程度となっており、類似団体平均値と同程度となっている。
- ⑧について
普及・啓発活動を重点的に取組んでいることもあり、近年は増加傾向で推移し、類似団体平均値と同程度となっている。

2. 老朽化の状況について

供用を開始して30年を越えており、持続的な下水道サービスの供給のために、中長期的な施設の状況を予測しながら更新・長寿命化を行い、下水道施設を計画的・効率的に管理するストックマネジメント計画の策定に平成29年度から着手している。

全体総括

下水道は清潔で快適な生活環境を維持する上で市民にとって必要不可欠な公共性の高いライフラインである。本市下水道は未だ普及途上であるが、今後は老朽化した施設の改築更新需要が増えることから投資額とのバランスを考えて財源を確保するなど健全な経営を行い、持続可能で安定的な下水道サービスの提供を実施していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（平成30年度決算）

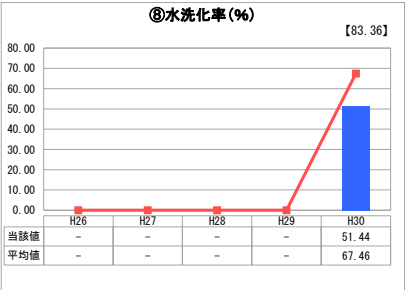
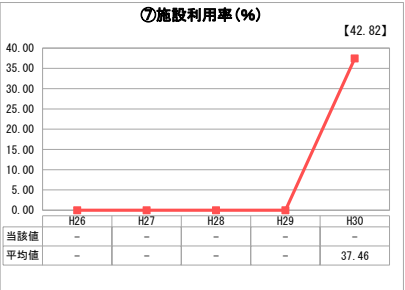
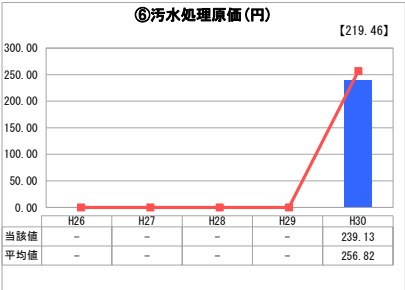
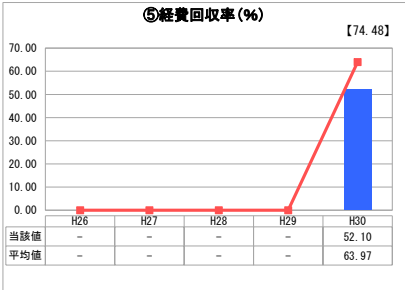
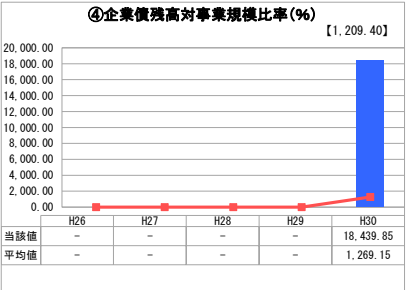
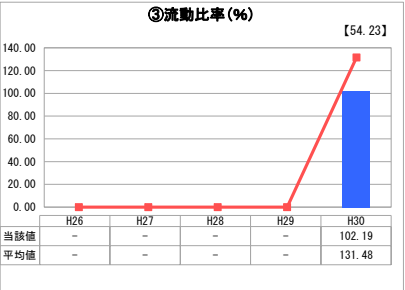
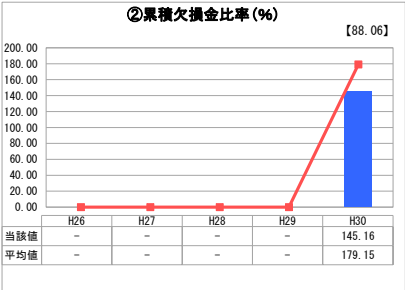
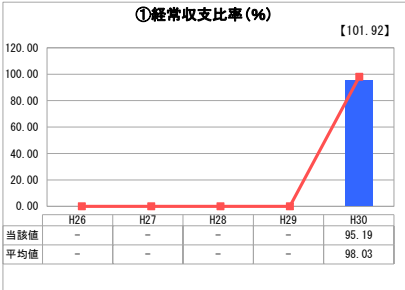
岡山県 笠岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	29.93	1.29	88.40	2,548

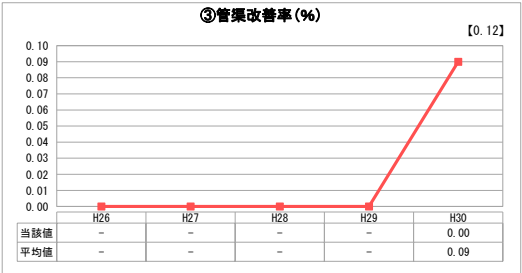
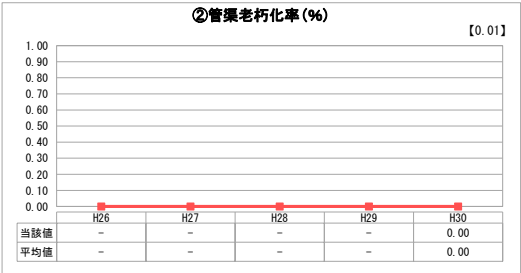
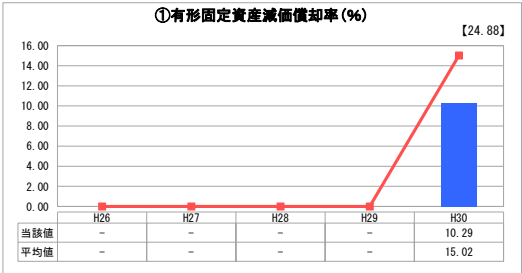
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,712	136.24	357.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
624	0.23	2,713.04

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は平成30年度から地方公営企業法を適用し、公営企業へと移行した。

①について
従前の水準で推移しており、他団体水準に近い。

④、⑤及び⑥について
人口密度が低く、有収水量及び下水道使用料収益は今後も見込むことが困難であると考えられる。また、地理的要因によっても資本費が割高になるため、他団体水準とは乖離している。

⑧について
接続世帯の増加に伴い、今後水洗化率は増加すると考えられる。しかしながら、接続対象となる人口・世帯の減少及び高齢化が進んでいるため、伸びは緩やかなものになると考えられる。

2. 老朽化の状況について

供用開始後数年しか経過しておらず、早急な対策は現時点では必要性が低い。

全体総括

特定環境保全公共下水道事業は、専ら公衆衛生の向上・公共用水域の水質保全が目的であり、公共性が非常に高い事業である。現在まで整備を拡大しているが、人口構造や地理的要因により、水洗化率や有収水量の著しい伸びは期待できない。そのため、経営の健全性と公益性のバランスを踏まえて事業を進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（平成30年度決算）

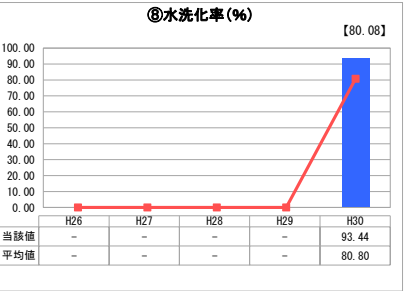
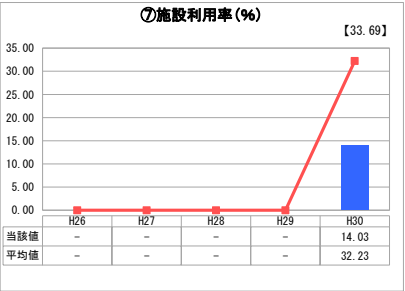
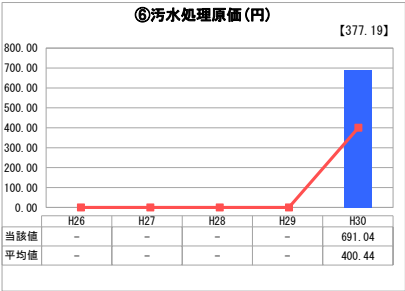
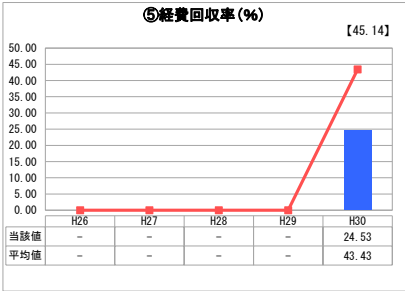
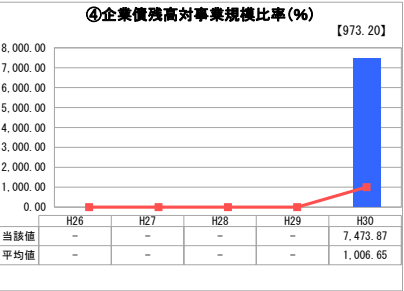
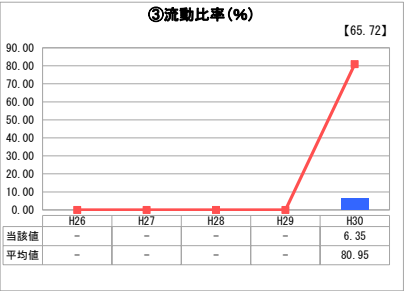
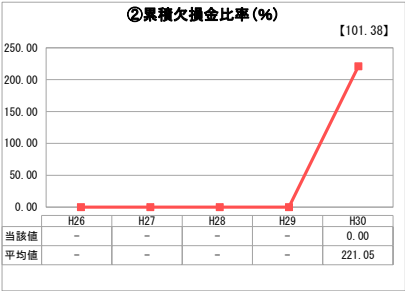
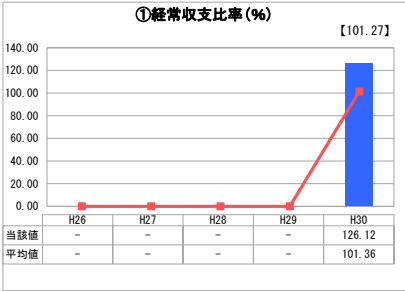
岡山県 笠岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	62.16	0.38	83.88	2,548

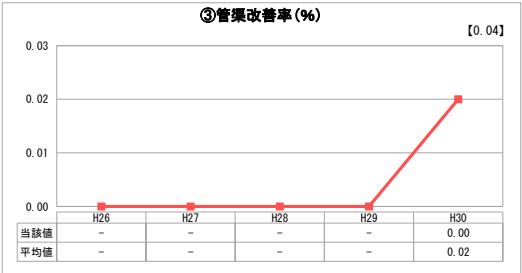
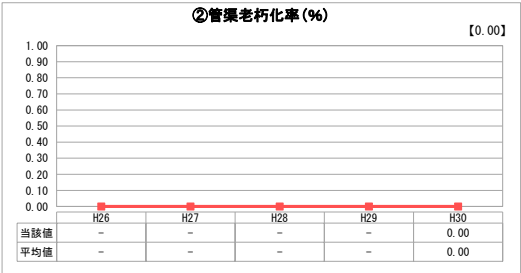
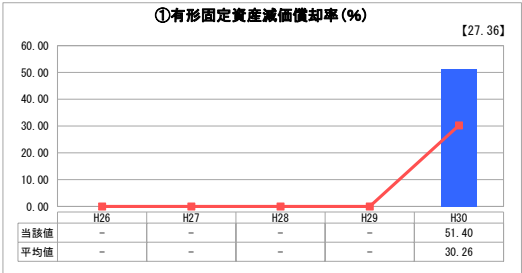
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,712	136.24	357.55
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
183	0.11	1,663.64

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は平成30年度から地方公営企業法を適用し、公営企業へと移行した。

①について
島嶼部という地理的要因により、使用料収益の増加は期待できず、繰入金による収入で賄っている。

⑤及び⑥について
人口減少により、有収水量及び下水道使用料収益は今後も見込むことが困難であると考えられる。

⑦について
処理施設は人口減少の影響を受けるため施設利用率は低い状況である。

⑧について
他団体平均を若干上回っている。下水道接続世帯数は減少しているが、区域内の接続割合が高いため、本数値も高くなっている。

2. 老朽化の状況について

供用を開始して15年程度であり、管渠施設については大きな老朽化は確認されていないが、機械・電気設備の老朽化対策を含めた総合的な機能保全を行う必要がある。

全体総括

本事業については、専ら漁港及び周辺海域の水質保全に寄与するためのものであり、公共性が非常に高い事業である。そのため、一概に経営状況の善し悪しでの判断が出来ない面もあるが、施設の機能保全対策を行いつつ、効率的な維持管理に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。